立命館大学大学院
2022年度実施　入学試験

博士課程前期課程

人間科学研究科

人間科学専攻

領域	入試方式	コース	実施月	専門		外国語（英語）		小論文	
				ページ	備考	ページ	備考	ページ	備考
心理学領域	一般入学試験	公認・一般	9月	P.6～	一部窓口公開のみ（WEB非公開）	P.14～	一部窓口公開のみ（WEB非公開）		
			2月	P.28～		P.39～	一部窓口公開のみ（WEB非公開）		
	社会人入学試験	一般	9月					P.18～	
			2月					P.43～	
	社会人入学試験（協定）	一般	9月					P.18～	
			2月					P.43～	
	外国人留学生入学試験	公認・一般	9月	P.6～	一部窓口公開のみ（WEB非公開）			P.23～	
		公認・一般	2月	P.28～				P.46～	
	学内進学入学試験	公認・一般	7月	P.1～					
	APU特別受入入学試験	一般	9月					P.18～	
			2月					P.43～	
臨床心理学領域	一般入学試験	公認・一般	9月	P.6～	一部窓口公開のみ（WEB非公開）	P.14～	一部窓口公開のみ（WEB非公開）		
		公認・一般	2月	P.28～		P.39～	一部窓口公開のみ（WEB非公開）		
	社会人入学試験	一般	9月	P.6～	一部窓口公開のみ（WEB非公開）			P.18～	
			2月	P.28～				P.43～	
	外国人留学生入学試験	公認・一般	9月	P.6～	一部窓口公開のみ（WEB非公開）			P.23～	
		公認・一般	2月	P.28～				P.46～	
	学内進学入学試験	公認	7月	P.1～					
	APU特別受入入学試験	一般	9月					P.18～	
			2月					P.43～	
実践人間科学領域	一般入学試験	一般	9月	P.6～	一部窓口公開のみ（WEB非公開）	P.14～	一部窓口公開のみ（WEB非公開）		
			2月	P.28～		P.39～	一部窓口公開のみ（WEB非公開）		
	社会人入学試験	一般	9月					P.18～	
			2月					P.43～	
	社会人入学試験（協定）	一般	9月					P.18～	
			2月					P.43～	
	外国人留学生入学試験	一般	9月	P.6～	一部窓口公開のみ（WEB非公開）			P.23～	
			2月	P.28～				P.46～	
	学内進学入学試験	公認・一般	7月	P.1～					
	APU特別受入入学試験	一般	9月					P.18～	
			2月					P.43～	

【表紙の見方】
×・・・入学試験の実施がなかった等の理由で入学試験問題の作成がなかったもの、または、問題を公開しないもの
斜線・・・学科試験（筆記試験）を実施しないもの

立命館大学大学院
2022年度実施　入学試験

博士課程後期課程

人間科学研究科

人間科学専攻

後期課程では、筆記試験を実施していません。

問題は回収します

立命館大学
人間科学研究科入学試験問題

（2022 年 7 月 2 日実施）

博士課程前期課程

学内進学入学試験　心理学共通

（問題用紙 5 枚，解答用紙 1 枚）

＜全入試方式共通＞

＜１時限目　45 分＞

問：心理学共通

※解答用紙には，受験番号と氏名を記入しなさい。

受　験　番　号	氏　　名

問（心理学共通）

[A] 以下の各問いについて、正しいと思うものを選択肢の中から 1 つ選びなさい。

(1) 他者の特徴に対して良い印象を形成していると、その人物の他の側面に対してまで良い印象を適用してしまう現象を何というか選びなさい。
1. ハロー効果
2. チャネル効果
3. 単純接触効果
4. 文脈条件付け効果

(2) フレーミング効果の一種で、ニュースなどで何かの問題を紹介する際に、一般的で抽象的な文脈で描くことを何というか選びなさい。
1. エピソード型フレーム
2. 争点型フレーム
3. テーマ型フレーム
4. 戦略型フレーム

(3) 最後に呈示される情報が印象に残り、評価に影響を及ぼすことを何というか選びなさい。
1. 新近効果
2. 呈示順序効果
3. 初頭効果
4. 印象効果

(4) 高次精神機能の発達は社会・文化を媒介するとし、発達の最近接領域の重要性を唱えた研究者は誰か選びなさい。
1. Piaget, J.
2. Harlow, H. F.
3. Vygotsky, L. S.
4. Erikson, E. H.

(5) Wertheimer, M.が提唱した群化の要因に<u>含まれないものを</u>選びなさい。
1. 羅列の要因
2. よい連続の要因
3. 閉合の要因
4. 共通運命の要因

(6) 構成概念妥当性に含まれないものを選びなさい。
1. 収束的妥当性
2. 弁別的妥当性
3. 因子的妥当性
4. 依存的妥当性

(7) Piaget, J.の認知発達段階の順番が正しいものを選びなさい。
1. 具体的操作期　感覚運動期　形式的操作期　前操作期
2. 形式的操作期　前操作期　感覚運動期　具体的操作期
3. 感覚運動期　前操作期　具体的操作期　形式的操作期
4. 感覚運動期　具体的操作期　前操作期　形式的操作期

(8) Erikson, E. H.が掲げた各発達段階とその段階における心理社会的課題および危機について、正しい組み合わせを選びなさい。
1. 幼児期　世代性　停滞性
2. 成人期　同一性確立　同一性拡散
3. 乳児期　基本的信頼　不信
4. 青年期　自律性　恥・疑惑

(9) 言語発達に関して、Chomsky, N.が生得的に子どもに備わっていると仮定したシステムの名称を選びなさい。
1. 生物プログラム
2. 言語獲得支援システム
3. 言語作成力
4. 言語獲得装置

(10) 古典的条件づけにおける刺激―刺激連合説の説明として最も適切なものを選びなさい。
1. 中性刺激と条件刺激の連合学習を仮定する説
2. 条件刺激と無条件刺激の連合学習を仮定する説
3. 多くの刺激が無条件反応を引き起こすと仮定する説
4. 無条件刺激間の関係が条件反応を引き起こすと仮定する説

(11) ネズミに報酬を与えずに迷路のなかで探索させたあと、迷路の特定の位置に餌を置くと迷路を探索したネズミは餌までの経路を速やかに学習することが知られている。このような潜在学習および認知地図に関する研究で有名な研究者を選びなさい。

1. Hull, C. L.
2. Skinner, B. F.
3. Thorndike, E. L.
4. Tolman, E. C.

(12) 注意におけるカクテルパーティ効果の説明として最も適切なものを選びなさい。

1. カクテルなどが注がれたグラスが触れ合う音は遠くであってもよく聞こえる。
2. フルコースの食事より軽食のほうが会話に集中できる。
3. 多くの人が雑談している環境であっても、興味のある会話が聞き取れる。
4. アルコールをほどほどに摂取すると、話し声が聞き取りやすくなる。

(13) Maslow, A. H.の欲求階層説の下から 2 番目の階層はどれか選びなさい。

1. 財産獲得の欲求
2. 愛情・所属の欲求
3. 生理的欲求
4. 安全の欲求

(14) 「自律訓練法」を創始した研究者を選びなさい。

1. Gendlin, E. T.
2. Koch, K.
3. Schultz, J. H.
4. Moreno, J. L.

(15) 「臨床動作法」についての説明としてあてはまらないものを選びなさい。

1. おとなの脳性麻痺による肢体不自由の改善を目指した動作訓練を発端としている。
2. 九州大学名誉教授の成瀬悟策を中心としたグループにより展開された、日本で生まれた心理療法の一つである。
3. 動作の体験を通して、クライアントの生活体験をより望ましい方向へ変化させることを意図とした。
4. ことばではなく動作を主に面接の媒体とすることで、主訴を改善する効果を上げている。

[B] 以下の用語の中から任意の 5 個を選択し，それぞれ 50〜100 字程度で意味をわかりやすく説明しなさい。解答欄の【　】に選択した用語を記入しなさい。順番は問わない。

- 第三者効果
- フロー
- 平行テスト法
- Ebbinghaus, H.の忘却曲線
- 自己意識的情緒
- 足場づくり
- 誘導運動
- 確証バイアス
- リフレーミング
- カタルシス

問題は回収します

（第２時限：90 分）

（2022 年 9 月実施）

2023 年度

人間科学研究科入学試験問題

博士課程前期課程

専 門

問題用紙８枚、解答用紙５枚

ページ

問１「心理学共通」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２～４
問２「心理学専門（心理学、心理学研究法）」・・・・・・・・・・・・・・・５～
問３「臨床心理学専門（心理療法、心理検査）」・・・・・・・・・・・・・・６～
問４「実践人間科学（心理学をコアとする人間科学）」・・・・・・・・・・７～８

解 答 す る 科 目

【心理学領域】 公認心理師コース 一般コース	**問１「心理学共通」、問２「心理学専門（心理学、心理学研究法）」の２問**を解答すること
【臨床心理学領域】 公認心理師コース	**問１「心理学共通」、問３「臨床心理学専門（心理療法、心理検査）」の２問**を解答すること
【臨床心理学領域】 一般コース	**問３「臨床心理学専門（心理療法、心理検査）」を必ず解答し、問１「心理学共通」、問２「心理学専門（心理学、心理学研究法）」、から１問**を選択し、解答すること
【実践人間科学領域】 一般コース	**問４「実践人間科学（心理学をコアとする人間科学）」を必ず解答し、問１「心理学共通」、問２「心理学専門（心理学、心理学研究法）」、問３「臨床心理学専門（心理療法、心理検査）」から１問**を選択し、解答すること

注 意 事 項

1. 問題冊子は入試方式・領域・コース共通です。上記の方法に従って解答してください。
2. 配布された問題用紙、解答用紙のホッチキス止めは絶対に外さないでください。
3. 試験開始後、解答する問の解答用紙すべてに受験番号と氏名を記入してください。
4. 問題冊子、解答用紙は全て回収します。
5. 3 問以上の解答、また指定以外の科目を解答した場合は、すべてを採点対象としません。

受験番号	志望領域	志望コース	氏名

問 1　心理学共通

［A］以下の各問いについて，正しいと思うものを選択肢の中から 1 つ選びなさい。（各 2 点）

(1)表情（顔面）フィードバック仮説の説明として正しいのはどれか。
1. 自己の感情が変化するとそれに応じて自己の表情が変化すること
2. 他人の表情の変化によって、自己の感情が影響を受けること
3. 自己の表情を表出させることで、他人の共感を生み出しやすいこと
4. 自己の表情を変化させるとそれに応じて自己の感情も変化すること

(2)偏見や社会的差別などの否定的影響を伴いうる客観的属性のことを何というか。
1. ネガティブバイアス
2. ステレオタイプ
3. カテゴリー処理
4. スティグマ

(3)選挙などで、マスメディアが事前に特定の候補者が優勢であると報じたことで、その候補者へさらに票が集まった場合、これはどんな効果が働いたといえるか。
1. バンドワゴン効果
2. ブーメラン効果
3. アンダードッグ効果
4. 議題設定効果

(4)乳児の奥行き知覚を調べるために視覚的断崖の装置を開発し、生後 6 ヶ月には乳児が奥行きを知覚すると考えた心理学の研究者はだれか。
1. Thomas, A.
2. Gibson, E.J.
3. Fantz,R.L.
4. Bowlby,J.

(5)次の 4 名の人物のうち、非構成的エンカウンター・グループの基本的な考え方を提唱した人物はだれか。
1. Kabat-Zinn,J.
2. 成瀬悟策
3. Rogers,C.
4. Klein,M.

(6)次の観察方法の中で、ある特定の対象を時間や場面を特定することなく観察し、印象的なことがらを記録する方法はどれか。
1. 時間見本法
2. 場面見本法
3. 実験的観察法
4. 日誌法

(7)Piaget, J.が提唱した幼児期の自己中心的な思考の種類として誤っているものはどれか、選びなさい。
1. 実念論的思考
2. 拡散的思考

3. アニミズム的思考
4. 人工論的思考

(8)発達理論（A 群）とその提唱者（B 群）の組み合わせとして正しいものはどれか、選びなさい。
【A 群】
①生態学的発達論
②愛着理論
③文化的発達理論
④発生的認識理論
⑤ライフサイクル論

【B 群】
a. Vygotsky, L. S.
b. Bronfenbrenner,U.
c. Bowlby, J.
d. Erikson, E. H.
e. Piaget, J.

1. ①-a ②-e ③-b ④-c ⑤-d
2. ①-d ②-b ③-c ④-e ⑤-a
3. ①-b ②-c ③-a ④-e ⑤-d
4. ①-c ②-a ③-b ④-d ⑤-e

(9)Gardner, H.が提唱した知能構造に関する理論として正しいものはどれか。
1. 多重知能理論
2. 多因子説
3. 二因子説
4. 鼎立理論

(10)味覚嫌悪条件づけでは、条件づけが可能な場合と条件づけが困難な場合がある。条件刺激と無条件刺激の組み合わせに関する記述として適切ではない選択肢を 1 つ選びなさい。
1. 光・音を条件刺激とし電気ショックを無条件刺激とすると、条件づけは可能である。
2. 光・音を条件刺激とし身体の不調を無条件刺激とすると、条件づけは困難である。
3. 飲み物の味を条件刺激とし電気ショックを無条件刺激とすると、条件づけは可能である。
4. 飲み物の味を条件刺激とし身体の不調を無条件刺激とすると、条件づけは可能である。

(11)Atkinson R. C. と Shiffrin, R. C. が提唱した記憶のモデルと関連する概念を示す選択肢として最も適切なものを 1 つ選びなさい。
1. 符号化、貯蔵、検索
2. 手続き記憶、意味記憶、エピソード記憶
3. 音韻ループ、視空間メモ帳、中央実行系
4. 感覚記憶、短期記憶、長期記憶

(12)プレグナンツの法則に含まれない選択肢を 1 つ選びなさい。
1. 近接の要因
2. 類推の要因
3. 閉合の要因
4. 類同の要因

(13)「来談者中心療法」について誤りのあるものを選びなさい。
1.「来談者中心療法」を創始したのは Rogers, C. R.である。
2. 当初は「指示的療法」と呼ばれていた。
3. 近年では「人間中心療法」と呼ばれ、時代を追って改名されている。
4. 日本には 1940 年代に導入された。

(14)バウムテストの創始した研究者を選びなさい。
1. Ellis, A.
2. Koch, K.
3. Moreno, J.L.
4. Kalff, D.

(15)現在の診断基準においては、「解離性障害」や「転換性障害」に分類されるが、以前は「子宮」を意味するギリシャ語からの命名による呼び方に一括されていた。ヨーロッパ文化圏において、古代から現代にいたる長い間用いられてきた精神医学用語は以下のうちどれか。
1. アレキシサイミア
2. TEACCH（ティーチ）
3. ネグレクト
4. ヒステリー

[B] 以下の用語の中から任意の 5 個を選択し，それぞれ 50～100 字で意味をわかりやすく説明しなさい。解答欄の【　　】に選択した用語を記入しなさい。順番は問わない。

・マキャベリアニズム
・社会的比較理論
・尺度水準
・プロトコル分析
・内発的動機づけ
・自己制御機能
・馴化
・維持リハーサル
・ウェルビーイング
・ミラクルクエスチョン

問 2　心理学専門（心理学、心理学研究法）

ある実験について記した以下の資料を読み、問題に答えよ。

入学試験や就職活動で面接官の前で話すとき、緊張のあまり脈が速くなったり手汗をかいた経験を持つ人は少なくないであろう。そこで、面接場面のように他者に評価される事態でスピーチを行うとき、心理的なストレス、心拍数の増加が生じるかを実験的に検討した（注 1）。

実験条件では、2 名の面接官の前で自分の長所について 5 分間のスピーチを行うことが求められた。また、参加者のスピーチについて、内容のわかりやすさ、話し方に抑揚があるか、声が震えていないか等が評価されると伝えられた。（下線 1）このように実験条件では面接場面を模して心理的なストレスが生じうる状況を参加者が経験した。一方、統制条件は心理的ストレスを経験しにくい状況とした。尚、いずれの条件においても、スピーチ前に 3 分間の時間が与えられ、参加者はスピーチの内容を考えた。実験では、各 5 分の（下線 2）事前安静期、スピーチ期、事後安静期の 3 つの測定期が設けられた。事前および事後の安静期では、特に課題を設けず、参加者は安静にしているように教示された。これらの各期において、心拍数を計測し 5 分間の平均心拍数を算出した。また、各期終了後に、各期におけるストレスの強さを 7 段階（非常に強い[7 点]−全くない[1 点]）で評価することが求められた。（下線 3）参加者は実験条件、あるいは、統制条件に、ランダムに割り当てられた。

得られた実験データを 2 つの図に示す。

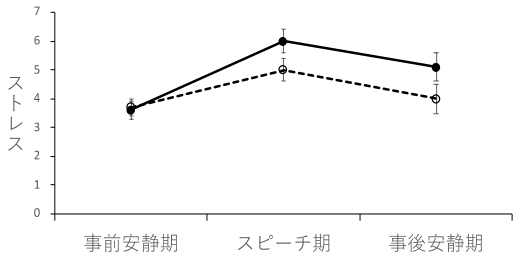

Figure 1. 各測定期におけるストレス得点（エラーバーは標準誤差）

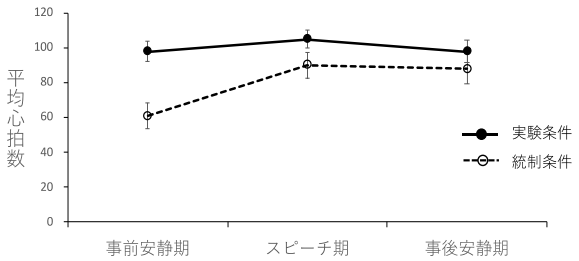

Figure 2. 各測定期における平均心拍数（エラーバーは標準誤差）

注 1：面接を模した状況でストレスをかける手続きを最初に考案したものとして、次の研究が知られる。

Kirschbaum, C., Pirke, K. M., & Hellhammer, D. H. (1993). The ‘Trier Social Stress Test’–a tool for investigating psychobiological stress responses in a laboratory setting. *Neuropsychobiology, 28*, 76-81.

(1) 下線 3 のように参加者がいずれか一つの条件に参加する実験計画の名称を答えよ。(10 字程度)

(2) 下線 1、本実験における適切な統制条件とはどのようなものか、実験条件と対比させて説明せよ。(200 字以内)

(3) 下線 2 の通り、実験では 3 つの測定期を設けた。今回の実験においてもしスピーチ期のみで計測を行った場合どのような問題が生じたかを述べよ。合わせて、3 つの測定期を設けるメリットについて記述せよ。(400 字以内)

問 3　臨床心理学専門（心理療法、心理検査）

（1）以下の文章を読み、①から⑤の（　　）にあてはまる言葉を記述しなさい。

心理検査にはさまざまな種類がある。大きく分けると、WISC などの「（　①　）検査」と呼ばれるもの、ロールシャッハや SCT などの「（　②　）法」、内田クレペリン精神検査などの「（　③　）検査法」と呼ばれるものなどがある。カウンセリングや心理療法の実践にあたっては、これらの検査結果をクライエントに対する実際の支援に活かせるようにすることが必要である。

また、クライエントの状態を理解するうえでは、しばしば操作的診断基準である DSM も有用である。DSM は日本では『精神疾患の診断・（　④　）マニュアル』という名称で、現在、第（　⑤　）版が出版されている。

（2）クライエントとセラピストとの「同盟関係（working alliance）」とは何かについて答えなさい。
そのうえで同盟関係の重要性について答えなさい。（400 字以内）

（3）家族療法における「IP（identified patient）」という言葉の意味を答えなさい。
その上で、IP という概念化がもつケースフォーミュレーションもしくは見立上の臨床的意義について、答えなさい。（400 字以内）

問 4　実践人間科学専門（心理学をコアとする人間科学）

以下の文章を読んで、設問に答えなさい。

この問題は、公開していません。

この問題は、公開していません。

出典　CNN　2022.01.29 Sat posted at 18:25 JST
（https://www.cnn.co.jp/fringe/35182789.html の記事を一部修正した）

(1)下線部の「あらゆる人にその人にふさわしい価値を与えること」とはどういうことを表しているか。課題文の主旨に即して記述しなさい。(200 字以内)

(2)文中でムクウェンデさんは「医学の世界に平然と存在していて、私たちが気付いていないかもしれない偏見の一部を明るみに出した」と述べている。米国の医学界の事例に限らず、あなたの身近にも「平然と存在していて、私たちが気付いていないかもしれない偏見」があるとすれば、どのようなものが挙げられるか記述しなさい。(400 字以内)

(3)問 2 のような偏見の問題解決に向けて、あなたはどのように取り組むことできるか。具体例を挙げながら記述しなさい。(400 字以内)

問題は回収します

（第１時限：60 分）

（2022 年 9 月実施）

2023 年度

人間科学研究科入学試験問題

博士課程前期課程

外国語

問題用紙４枚、解答用紙２枚

＜一般入試方式＞

※ 解答用紙すべてに受験番号と氏名を記入しなさい。

受　験　番　号	氏　　名

次の文章を読み、本文の内容に即して問に答えなさい。

この問題は、公開していません。

この問題は、公開していません。

この問題は、公開していません。

*1 BIPOC（Black, Indigenous, and People of Color）黒人、先住民、有色人種
*2 White 白人
*3 Trans and nonbinary トランスジェンダー、ノンバイナリー（生物学的性別と性自認が異なる人、もしくは、性自認を男性女性に限定しない人）

Palmer, C. (2021, June 1). How to overcome impostor phenomenon. Monitor on Psychology, 52(4).
https://www.apa.org/monitor/2021/06/cover-impostor-phenomenon
The article has been linked to with permission.

（1）インポスター現象（imposter phenomenon）とは何か、文中の言葉を使って定義しなさい。（50 字以内）

（2）どのような属性の人たちにインポスター現象が見られることが多いと論じられているか、文中にある具体例を提示しながら説明しなさい。（200 字以内）

（3）インポスター現象が人と仕事に与える影響について説明しなさい。（400 字以内）

（4）インポスター現象を乗り越える方法について、具体策を交えながらで説明しなさい。（150 字以内）

問題は回収します

（第 1 時限：60 分）

（2022 年 9 月実施）

2023 年度

人間科学研究科入学試験問題

博士課程前期課程

小論文

問題用紙５枚、解答用紙２枚

＜社会人・APU 入試方式＞

※ 解答用紙すべてに受験番号と氏名を記入しなさい。

受　験　番　号	氏　　名

以下の文章を読んで、問に答えなさい。

生物と死

まるで違った側面から考えてみよう。死は、生命あるものにとって、最も普遍的な現象の一つである。むしろ「生命」の定義のなかに内包されていると言ってもよい。「生きとし生けるもの」という表現があるが、まさしく、生きとし生けるものすべてに訪れるのが死である。死がなければ生もない。もっとも、植物に死があるか、と問われれば、少なくとも一般的な動物と比較して、その定義が難しくなることは否めない。一年生草本と言い、多年生草本と言い、しかし、いずれも、世代を継いで、その生命を終わる、という時間をどこに設定すればよいのかが、動物ほど明瞭ではないからである。樹木のなかには一千年を「生きて」いるものもないわけではない。しかも、その個体（と呼んでよいとして）の相当部分は、もはや「生体」の定義に当てはまらない状態でさえあるのに、である。そもそも、生命の担い手であるものが、動物の個体のように、はっきりとしないケースも数多くある。しかし、それでも、種として地球上から姿を消した、つまり絶滅することによって、種としての生命を終わった植物もまた、決して少なくない。

動物の場合、死は一応個体を前提としていると言ってよい。もちろん、動物に分類されるもののなかにも、個体という概念が十分には当てはまらないものもあるが、多くの動物では、個体の誕生とその存続、そして、それが不可能になるという事態とが、両輪となって、生死が生まれる。そして、この事態は、ヒトにあっても全く変わりはない。その意味で、死は、ヒトも含めた生命体一般にとって、「普遍的」と言うことができる。

もっとも、現在の進化理論では、動物においても、個体という概念の持つ重みが、かつてよりは遙かに軽くなっている。そうした考え方の基礎になっているのは、幾つかの哺乳類で確認されている「子殺し」という現象である。ライオンを例にとろう。ライオンは一頭のオスを中心に数頭のメスとその未成熟の子供たちが群れを造って生活する。子育て中は、メスは発情しない。そこへ、別のオスが入り込むことがある。言わば家長の地位の簒奪（さんだつ)、つまり一種王朝の革命である。革命が成功して、これまでの家長が放逐され、新しいオスがその群れを率いることになると、その群れのなかにいた子供たちは、新しい家長によって殺されてしまう、という現象がしはしば観察されている。成育中の子供たちがいる間は、メスか発情しないため、新しいオスに、交尾の機会が与えられないこと、自分とは無関係の子供たちを、大きなエネルギーを使って育て上げることは無駄と思われること、などが原因であると思われるが、ライオンの一頭一頭の個体が、そのような「計算」をした上で行動しているとは考え難い。

そこで、R・ドーキンスは、ポイントは個体にはなく、その個体を支える「遺伝子」にある、という説を立てた。かつて近代遺伝子遺伝学の祖であるA・ヴァイスマンが、「生殖質」という概念にたどり着いた際、個体を作り上げている「体質」は死によって滅びるが、個体を生み出した「生殖質」 の方は、次の世代へと受け継がれていくがゆえに、長い間「保続する」という、生殖質の「保続説」を立てた。ドーキンスもまた、個体は、遺伝子を受け継がせる運び手(ヴィークル、vehicle) に過ぎず、遺伝子こそが物語の主役であると考えた。遺伝子自体が、如何に自らの保続性を発揮できるか、さらにより広く展開することができるか、という点での戦略をプログラムとして持っており、その戦略に従って、その運び手たる個体

は行動するのだ、と考えるのである。そう考えれば、ライオンの子殺し行動は、合理的に理解できることになる。やや文学的表現ながら、ドーキンスは遺伝子の持つそのような性格を「利己的遺伝子」と名付けたのであった。

しかし、ここで大切なことに気付かされる。生物の一種としてのヒトは、確かにそうした傾向を完全に免れてはいないかもしれない。男性の性衝動は、「浮気心」というような表現に託されて、古来、ともすれば多くの女性に向かいがちであることは否めない。それは、自らの遺伝子を広く長く保続させようとする遺伝子の働きの結果である、と考えられないことはない。しかし、ヒトが、いやむしろ人間が、というべきだろうが、他の動物と恐らく決定的に違う点が少なくとも一つある。それは自らが「死ぬ」存在であることを「知っている」という点である。

反論があるかもしれない。飼い猫や飼い犬は、死期を悟ると、飼い主の目の届かないところにそっと身を隠す。ゾウは、やはり死期が近づくと、仲間の群れから離れ、一人死地へ赴く、それが証拠に「ゾウの墓場」として知られる湖があるではないか。彼らは、少なくとも近づいた「死」を予感、感知しているのではないか。

動物物語としては感動的ではあるが、しかし、現代の動物行動学者の見解は、こうした現象を否定する方向に傾いている。イヌやネコは、病いが重くなると、単に静かに休める場所を探そうとするに過ぎず、ゾウの墓場は、象牙で儲けようとする密猟者たちが、生きたゾウを殺して奪った象牙ではないことを示そうとして作り上げたお話に過ぎない、という解釈が一般的なのだ。

（中略）

人間社会では、同家系内での結婚を禁じたり、抑制したりする風習がある。人間の場合は、恐らくは、そうしたタブーを持たないコミュニティが脆弱性を持つことを、経験の積み重ね、言い換えれば記憶、もしくは記録に基づいて、大脳が理解し、判断した結果生まれた風習であると考えることもできる。同じ遺伝子型を長く保続することは、経験的なデータによっても、有利な戦略とは言えないらしい。しかし、動物一般としては、有性生殖によって遺伝子型を変更することが、そうした経験の記憶・記録による判断の結果と見なすことは難しい。であるとすれば、同一の遺伝子をひたすら後継世代に繋いでいくことが最終目標であるにもかかわらず、それを追求するときに生じる「弱さ」を避けるために有性生殖を行うという選択が、やはり遺伝子の戦略のなかに組み込まれていると考えるのが自然だろう。

この一見矛盾する選択は、恐らくは、長い進化の過程で、遺伝子の保続を危うくする敵、つまりその運び手である個体を斃（たお）してしまう病原体の出現によって説明され得るのではないか。ある遺伝子型は、あるとき出現した病原体に対して全く抵抗できないために、その遺伝子型を持つ個体群とともに死滅の方向に向かう。その遺伝子型の異型が、その異型性のゆえに運良く生き残るとすると、その個体との交配によって、その病原体には抵抗力を持つ新しい遺伝子型が生まれる。そのとき決定的な役割を果たすのが交配、つまり異型同士の組み合わせを生み出す有性生殖的方法にほかならない。こんなことの繰り返しのなかで、遺伝子型の「記憶」として、同型の交配よりも異型の交配の方が、自らの保続に有利である、という結果が生まれ、そのための戦略となった、と考えれば、つじつまは合う。

それはともかく、人間が、自らを「死すべき」ものとして自覚していることだけは確かだ

ろう。従って、ドーキンスの「利己的遺伝子」という概念が公表された際には、むしろ反発というか、無理解に基づく否定的な意見も少なくなかった。

言い換えると、如何に自らの遺伝子が保続のプログラムを持ち、子供を持つことで、あるいは子供をもつための行為を行うことで、連続性のプログラムに従っているとしても、なお、人間は自らの死ということを、決定的な不連続のように解釈することに慣れている。それは「体質」が滅びることだけではなく、一人の人間の意識、想念、感覚、意志、技能などが、死によって断絶するという、死の理解によって支えられた、抜き難い発想があるからであろう。

それは一つには、人間の個体は、幼い頃に不自然な死に、その命を奪われる場合を除いて、成人するに当たって、遺伝子の発現結果に加えて、極めて豊かな、その個人に特有の資質に基づく後天的な様々な機能と特質を獲得するからであろう。名演奏家としての類いまれな力量、誰もが真似られないような職人としての高度な技量、国際社会の中で培った幅広い語学力と鋭い洞察力……。一人ひとりの個人は、そうした特質を自らの中に養い、育て、活用してきた。社会もまた、そうした個人の働きによって支えられ、発展を遂げてもきた。しかし、死は、そのすべてを一瞬のうちに無にしてしまう。

同じような演奏家、同じような職人、同じような国際人。それらを得るには、またゼロから出発しなければならない。現代遺伝学理論で基本的に否定され、実際面でも否定されている「獲得形質の遺伝」、例えばテニスの名選手の子供が、たとえ多少なりとも、最初からテニスの力量を備えていてくれればよいはずなのだが、それは叶わぬ夢に過ぎない。どんな場合でも、こうした二次的に獲得された機能や特質は、次世代への連続性、保続性は期待できない。この厳しい現実こそ、人間の死の持つ決定的なポイントであろう。

勿論人間は早くからこのことに気付いていた。言葉をもった人間は、最初は口承によって、つまり言い伝えによって、やがては文字や紙のような記録媒体を発明して、一人の人間の熟練や機能の要諦を書き残し、あるいはどこのコミュニティにも、早くから存在していた「学校」に類するものを通じて、二次的に獲得された一切を、何とか後継世代に繋いでいこうと、懸命な努力を積み重ねてきている。

死によって生まれる非連続性、断絶を乗り越えようとする、このような人間の二次的な生産物の総体を、私たちは「文化」と呼ぶのではないか。言い換えれば、文化は「死」のなかから生まれてきたことになる。人間は、遺伝子を保続させようとする生物学的な動物であると同時に、死を知る動物でもある。そして死を知ることによって、継承すべき文化を生み出す。ゆえに人間だけが、そういう意味での文化を持つ動物になった、という論理が成立することになる。

(中略)

そして、人間だけが、生きるに当たって、死を考え、死を人生の旅路の究極点に見据えることで、生きている動物ということになる。それか幸福なのか、不幸なのか。しかし、人間性は、まさにそこにこそ成立することだけは、認めなければなるまい。

出典：村上陽一郎「死の臨床学」（新曜社, 2018 年, p.83-92）一部修正変更した。

問
(1)利己的遺伝子がなぜ利己的なのか、ライオンの子殺しと男性の浮気の例を使い、説明しなさい。(300 字以内)

(2)筆者が述べる文化の役割について要約しなさい。またその上で、この考え方についてあなたが賛成するか反対するか、理由とともに論じなさい。(300 字以内)

(3)ここに述べられた人間の生と死、遺伝と文化というテーマについて、あなたのこれまでの経験やあなたの志望する分野における研究および実践と結びつけて具体例を挙げつつ論じなさい。(600 字以内)

問題は回収します

（第 1 時限：60 分）

（2022 年 9 月実施）

2023 年度

人間科学研究科入学試験問題

博士課程前期課程

小論文

問題用紙５枚、解答用紙１枚

＜外国人留学生入試方式＞

※ 解答用紙すべてに受験番号と氏名を記入しなさい。

受　験　番　号	氏　　名

以下の文章を読み、問に答えなさい。

生物と死

まるで違った側面から考えてみよう。死は、生命あるものにとって、最も普遍的な現象の一つである。むしろ「生命」の定義のなかに内包されていると言ってもよい。「生きとし生けるもの」という表現があるが、まさしく、生きとし生けるものすべてに訪れるのが死である。死がなければ生もない。もっとも、植物に死があるか、と問われれば、少なくとも一般的な動物と比較して、その定義が難しくなることは否めない。一年生草本と言い、多年生草本と言い、しかし、いずれも、世代を継いで、その生命を終わる、という時間をどこに設定すればよいのかが、動物ほど明瞭ではないからである。樹木のなかには一千年を「生きて」いるものもないわけではない。しかも、その個体（と呼んでよいとして）の相当部分は、もはや「生体」の定義に当てはまらない状態でさえあるのに、である。そもそも、生命の担い手であるものが、動物の個体のように、はっきりとしないケースも数多くある。しかし、それでも、種として地球上から姿を消した、つまり絶滅することによって、種としての生命を終わった植物もまた、決して少なくない。

動物の場合、死は一応個体を前提としていると言ってよい。もちろん、動物に分類されるもののなかにも、個体という概念が十分には当てはまらないものもあるが、多くの動物では、個体の誕生とその存続、そして、それが不可能になるという事態とが、両輪となって、生死が生まれる。そして、この事態は、ヒトにあっても全く変わりはない。その意味で、死は、ヒトも含めた生命体一般にとって、「普遍的」と言うことができる。

もっとも、現在の進化理論では、動物においても、個体という概念の持つ重みが、かつてよりは遙かに軽くなっている。そうした考え方の基礎になっているのは、幾つかの哺乳類で確認されている「子殺し」という現象である。ライオンを例にとろう。ライオンは一頭のオスを中心に数頭のメスとその未成熟の子供たちが群れを造って生活する。子育て中は、メスは発情しない。そこへ、別のオスが入り込むことがある。言わば家長の地位の簒奪（さんだつ)、つまり一種王朝の革命である。革命が成功して、これまでの家長が放逐され、新しいオスがその群れを率いることになると、その群れのなかにいた子供たちは、新しい家長によって殺されてしまう、という現象がしはしば観察されている。成育中の子供たちがいる間は、メスか発情しないため、新しいオスに、交尾の機会が与えられないこと、自分とは無関係の子供たちを、大きなエネルギーを使って育て上げることは無駄と思われること、などが原因であると思われるが、ライオンの一頭一頭の個体が、そのような「計算」をした上で行動しているとは考え難い。

そこで、R・ドーキンスは、ポイントは個体にはなく、その個体を支える「遺伝子」にある、という説を立てた。かつて近代遺伝子遺伝学の祖であるA・ヴァイスマンが、「生殖質」という概念にたどり着いた際、個体を作り上げている「体質」は死によって滅びるが、個体を生み出した「生殖質」 の方は、次の世代へと受け継がれていくがゆえに、長い間「保続する」という、生殖質の「保続説」を立てた。ドーキンスもまた、個体は、遺伝子を受け継がせる運び手(ヴィークル、vehicle) に過ぎず、遺伝子こそが物語の主役であると考えた。遺伝子自体が、如何に自らの保続性を発揮できるか、さらにより広く展開することができるか、という点での戦略をプログラムとして持っており、その戦略に従って、その運び手たる

個体は行動するのだ、と考えるのである。そう考えれば、ライオンの子殺し行動は、合理的に理解できることになる。やや文学的表現ながら、ドーキンスは遺伝子の持つそのような性格を「利己的遺伝子」と名付けたのであった。

しかし、ここで大切なことに気付かされる。生物の一種としてのヒトは、確かにそうした傾向を完全に免れてはいないかもしれない。男性の性衝動は、「浮気心」というような表現に託されて、古来、ともすれば多くの女性に向かいがちであることは否めない。それは、自らの遺伝子を広く長く保続させようとする遺伝子の働きの結果である、と考えられないことはない。しかし、ヒトが、いやむしろ人間が、というべきだろうが、他の動物と恐らく決定的に違う点が少なくとも一つある。それは自らが「死ぬ」存在であることを「知っている」という点である。

反論があるかもしれない。飼い猫や飼い犬は、死期を悟ると、飼い主の目の届かないところにそっと身を隠す。ゾウは、やはり死期が近づくと、仲間の群れから離れ、一人死地へ赴く、それが証拠に「ゾウの墓場」として知られる湖があるではないか。彼らは、少なくとも近づいた「死」を予感、感知しているのではないか。

動物物語としては感動的ではあるが、しかし、現代の動物行動学者の見解は、こうした現象を否定する方向に傾いている。イヌやネコは、病いが重くなると、単に静かに休める場所を探そうとするに過ぎず、ゾウの墓場は、象牙で儲けようとする密猟者たちが、生きたゾウを殺して奪った象牙ではないことを示そうとして作り上げたお話に過ぎない、という解釈が一般的なのだ。

（中略）

人間社会では、同家系内での結婚を禁じたり、抑制したりする風習がある。人間の場合は、恐らくは、そうしたタブーを持たないコミュニティが脆弱性を持つことを、経験の積み重ね、言い換えれば記憶、もしくは記録に基づいて、大脳が理解し、判断した結果生まれた風習であると考えることもできる。同じ遺伝子型を長く保続することは、経験的なデータによっても、有利な戦略とは言えないらしい。しかし、動物一般としては、有性生殖によって遺伝子型を変更することが、そうした経験の記憶・記録による判断の結果と見なすことは難しい。であるとすれば、同一の遺伝子をひたすら後継世代に繋いでいくことが最終目標であるにもかかわらず、それを追求するときに生じる「弱さ」を避けるために有性生殖を行うという選択が、やはり遺伝子の戦略のなかに組み込まれていると考えるのが自然だろう。

この一見矛盾する選択は、恐らくは、長い進化の過程で、遺伝子の保続を危うくする敵、つまりその運び手である個体を斃（たお）してしまう病原体の出現によって説明され得るのではないか。ある遺伝子型は、あるとき出現した病原体に対して全く抵抗できないために、その遺伝子型を持つ個体群とともに死滅の方向に向かう。その遺伝子型の異型が、その異型性のゆえに運良く生き残るとすると、その個体との交配によって、その病原体には抵抗力を持つ新しい遺伝子型が生まれる。そのとき決定的な役割を果たすのが交配、つまり異型同士の組み合わせを生み出す有性生殖的方法にほかならない。こんなことの繰り返しのなかで、遺伝子型の「記憶」として、同型の交配よりも異型の交配の方が、自らの保続に有利である、という結果が生まれ、そのための戦略となった、と考えれば、つじつまは合う。

それはともかく、人間が、自らを「死すべき」ものとして自覚していることだけは確かだ

ろう。従って、ドーキンスの「利己的遺伝子」という概念が公表された際には、むしろ反発というか、無理解に基づく否定的な意見も少なくなかった。

言い換えると、如何に自らの遺伝子が保続のプログラムを持ち、子供を持つことで、あるいは子供をもつための行為を行うことで、連続性のプログラムに従っているとしても、なお、人間は自らの死ということを、決定的な不連続のように解釈することに慣れている。それは「体質」が滅びることだけではなく、一人の人間の意識、想念、感覚、意志、技能などが、死によって断絶するという、死の理解によって支えられた、抜き難い発想があるからであろう。

それは一つには、人間の個体は、幼い頃に不自然な死に、その命を奪われる場合を除いて、成人するに当たって、遺伝子の発現結果に加えて、極めて豊かな、その個人に特有の資質に基づく後天的な様々な機能と特質を獲得するからであろう。名演奏家としての類いまれな力量、誰もが真似られないような職人としての高度な技量、国際社会の中で培った幅広い語学力と鋭い洞察力……。一人ひとりの個人は、そうした特質を自らの中に養い、育て、活用してきた。社会もまた、そうした個人の働きによって支えられ、発展を遂げてもきた。しかし、死は、そのすべてを一瞬のうちに無にしてしまう。

同じような演奏家、同じような職人、同じような国際人。それらを得るには、またゼロから出発しなければならない。現代遺伝学理論で基本的に否定され、実際面でも否定されている「獲得形質の遺伝」、例えばテニスの名選手の子供が、たとえ多少なりとも、最初からテニスの力量を備えていてくれればよいはずなのだが、それは叶わぬ夢に過ぎない。どんな場合でも、こうした二次的に獲得された機能や特質は、次世代への連続性、保続性は期待できない。この厳しい現実こそ、人間の死の持つ決定的なポイントであろう。

勿論人間は早くからこのことに気付いていた。言葉をもった人間は、最初は口承によって、つまり言い伝えによって、やがては文字や紙のような記録媒体を発明して、一人の人間の熟練や機能の要諦を書き残し、あるいはどこのコミュニティにも、早くから存在していた「学校」に類するものを通じて、二次的に獲得された一切を、何とか後継世代に繋いでいこうと、懸命な努力を積み重ねてきている。

死によって生まれる非連続性、断絶を乗り越えようとする、このような人間の二次的な生産物の総体を、私たちは「文化」と呼ぶのではないか。言い換えれば、文化は「死」のなかから生まれてきたことになる。人間は、遺伝子を保続させようとする生物学的な動物であると同時に、死を知る動物でもある。そして死を知ることによって、継承すべき文化を生み出す。ゆえに人間だけが、そういう意味での文化を持つ動物になった、という論理が成立することになる。

（中略）

そして、人間だけが、生きるに当たって、死を考え、死を人生の旅路の究極点に見据えることで、生きている動物ということになる。それか幸福なのか、不幸なのか。しかし、人間性は、まさにそこにこそ成立することだけは、認めなければなるまい。

出典：村上陽一郎「死の臨床学」（新曜社，2018 年，p. 83-92）一部修正変更した。

問
(1)利己的遺伝子がなぜ利己的なのか、ライオンの子殺しと男性の浮気の例を使い、説明しなさい。(300 字以内)

(2)筆者が述べる文化の役割について要約しなさい。またその上で、この考え方についてあなたが賛成するか反対するか、理由とともに論じなさい。(500 字以内)

問題は回収します

（第 2 時限：90 分）

（2023 年 2 月実施）

2023 年度

人間科学研究科入学試験問題

博士課程前期課程

専 門

（全 11 ページ）

ページ

問 1「心理学共通」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2～ 5

問 2「心理学（心理学、心理学研究法）」・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6～ 8

問 3「臨床心理学（心理療法、心理検査）」・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

問 4「実践人間科学（心理学をコアとする人間科学）」・・・・・・・・・・ 10～11

解 答 す る 科 目

【心理学領域】 公認心理師コース 一般コース	**問 1「心理学共通」、問 2「心理学（心理学、心理学研究法）」の 2 問**を解答すること
【臨床心理学領域】 公認心理師コース	**問 1「心理学共通」、問 3「臨床心理学（心理療法、心理検査）」の 2 問**を解答すること
【臨床心理学領域】 一般コース	**問 3「臨床心理学（心理療法、心理検査）」を必ず解答し、問 1「心理学共通」、問 2「心理学（心理学、心理学研究法）」、から 1 問**を選択し、解答すること
【実践人間科学領域】 一般コース	**問 4「実践人間科学（心理学をコアとする人間科学）」を必ず解答し、問 1「心理学共通」、問 2「心理学専門（心理学、心理学研究法）」、問 3「臨床心理学（心理療法、心理検査）」から 1 問**を選択し、解答すること

注 意 事 項

1. 問題冊子は入試方式・領域・コース共通です。上記の方法に従って解答してください。
2. 配布された問題用紙、解答用紙のホッチキス止めは絶対に外さないでください。
3. 試験開始後、解答する問の解答用紙すべてに受験番号と氏名を記入してください。
4. 問題冊子、解答用紙は全て回収します。
5. 3 問以上の解答、また指定以外の科目を解答した場合は、すべてを採点対象としません。

受験番号	志望領域	志望コース	氏名

問 1（心理学共通）

［A］以下の各問いについて，正しいと思うものを選択肢の中から 1 つ選びなさい。（各 2 点）

(1) Allport, G. W. が著書『デマの心理学』にて流言の流布量を定式化しているが、その定式に出てくる要素は「内容の重要度」ともう一つは何か。当てはまるものを選びなさい。

1. 内容の生起確率
2. 内容の曖昧さ
3. 報道の量
4. 文化的な合致

(2) Russell, J. A.の感情円環モデルでは、感情は 2 次元上に配置されているが、その次元とは「快－不快」ともう一つは何であるか。

1. 活性－不活性
2. 恐れ－安心
3. 興奮－不興奮
4. 驚き－退屈

(3) 攻撃行動の一種で、仲間はずれや無視などといった精神的に他者に危害を加える攻撃のことを何というか。

1. 戦略的攻撃
2. 一般性攻撃
3. 衝動的攻撃
4. 関係性攻撃

(4) 一卵性双生児の階段上りに関する研究から、内的な成熟によって発達が促進されるという成熟説を唱え、学習の準備状態（レディネス）を重視する立場をとった発達心理学の研究者はだれか。

1. Watson, J.B.
2. Jensen, A.R.
3. Gesell, A.
4. Chess,S.

(5) 次の 4 名の人物のうち、1976 年の論文で、「足場かけ（Scaffolding）」の概念を提唱した教育心理学の研究者はだれか。

1. Thorndike, E.L.
2. Cronbach,L.J.
3. Kelly.G.A.
4. Bruner, J.S.

(6)構造方程式モデリングにおいて、モデルを評価する際に、通常用いられない指標はどれか。

1. Z 値
2. χ2 値
3. GFI
4. RMSEA

(7)愛着理論に関連の深い用語【A 群】とその提唱者【B 群】の組み合わせとして正しいものはどれか。

【A 群】
① ストレンジ・シチュエーション法
② 移行対象
③ 母性剥奪
④ 代理母親実験

【B 群】
a. Ainsworth, M.D.S.
b. Bowlby, J.
c. Winnicott, D.W.
d. Harlow, H.F.

1. ①-a　②-c　③-b　④-d
2. ①-c　②-b　③-a　④-d
3. ①-c　②-d　③-b　④-a
4. ①-d　②-a　③-b　④-c

(8)Kohlberg, L. の道徳性発達理論のうち、慣習的レベルとして適切なものはどれか、選択しなさい。

1. 「罪と服従への志向」
2. 「対人的同一致・よい子志向」
3. 「道具的功利的相対的志向」
4. 「社会契約的遵法主義志向」

(9)以下の文章の①②③に当てはまる用語の組み合わせとして正しいものはどれか、選びなさい。

Piaget,J.は、人間の適応のプロセスを（　①　）と（　②　）という 2 つの活動からなると考えた。（　①　）は、すでに持っているシェマによって環境に働きかけ、自分のものにする過程であり、（　②　）は、環境からの働きかけを受けて、生活体が既有のシェマを変容させることである。その（　①　）と（　②　）の繰り返しにより適応をはかることを（　③　）という。

1. ①均衡化　②同化　③調節
2. ①調節　②同化　③均衡化
3. ①均衡化　②調節　③同化
4. ①同化　②調節　③均衡化

(10) オペラント条件づけにおける負の強化の説明として正しい選択肢を１つ選びなさい。

1. ある行動を行うと，望ましい刺激が取り除かれる。
2. ある行動を行うと，嫌悪刺激が与えられる。
3. ある行動を行うと，嫌悪刺激が取り除かれる。
4. ある行動を行っても，望ましい刺激が与えられない。

(11) 記憶における転移適切処理効果の説明として正しい選択肢を１つ選びなさい。

1. 符号化のときの処理の深さが記憶の成績に影響する。
2. 符号化のときの文脈とテストのときの文脈が一致するかどうかが記憶の成績に影響する。
3. 符号化のときの精緻化が記憶の成績に影響する。
4. 符号化のときの処理と検索のときの処理が一致するかどうかが記憶の成績に影響する。

(12) フェヒナーの法則の説明として最も適切な選択肢を１つ選びなさい。

1. 刺激の強さの対数に比例して感覚の強さが増加する。
2. 薄暗くなると色の区別はつきにくくなるが，青みが相対的に明るくなる。
3. 感じられる刺激の最小の差と刺激の客観的大きさの比は一定である。
4. 一定の強度で持続する刺激であっても感覚器官の感度は変化する。

(13) かつて不安神経症と呼ばれたものの一種で、心拍や過呼吸の増加、発汗、めまいや死の恐怖などに襲われる発作を繰り返し、また発作がおこるという予期不安や、そのため外出への困難を生じる疾患を、ＤＳＭ－５では何と呼ぶか？

1. 全般不安症
2. パニック症
3. 恐怖症
4. ヒステリー

(14) フォーカシングを開発した研究者を選びなさい。

1. Perls,F.S.
2. Ellis,A.
3. Gendlin,E.T.
4. Schultz,J.H.

(15) 「箱庭療法」についての説明としてあてはまらないものを選びなさい。

1. 「箱庭療法」は Lowenfeld,M.により創始された。
2. 「箱庭療法」の元となった技法は「世界技法」である。
3. Kalff,D.は「世界技法」を Freud,S.の理論をベースに「箱庭療法」に発展させた。
4. Kalff,D. は、「箱庭療法」の適応範囲を成人にも拡大させた。

[B] 以下の用語の中から任意の 5 個を選択し，それぞれ 50〜100 字で意味をわかりやすく説明しなさい。解答欄の【　　】に選択した用語を記入しなさい。順番は問わない。

・シャーデンフロイデ
・相互独立的自己観
・半構造化面接
・Piaget, J.の自己中心性
・刻印づけ（imprinting）
・結晶性知能
・刺激般化
・主観的輪郭
・ピア・サポート
・テストバッテリー

問 2　心理学（心理学、心理学研究法）

以下の資料を読み、問題に答えよ。

心理学実験の種類と特徴

心理学で行う実験には大きく分けて、実験室実験、フィールド実験、自然実験の３つがある。実験室実験は、独立変数を意図的に操作でき、参加者を無作為に条件に割り当てるなど、要因を統制しやすく剰余変数の影響を少なくできる。その反面、実験状況が人工的で単純になり現実性を欠く場合がある。フィールド実験は実験室以外の場所、すなわち、日常生活を行う場所（自宅、学校、職場など）で行うためリアリティは高くなる。実験室実験と同様に、独立変数の意図的操作、参加者の無作為割り当ては可能だが、現実場面では実験に関わる要因統制が難しくなる。最後に、自然実験は日常生活で実際に生じた自然なデータを扱う。しかし、実験室実験やフィールド実験のような積極的な実験操作や無作為割り当てなどの実験統制は不可能となる。よって、自然に生じたデータから、独立変数の操作やサンプル抽出ができるものを見つけ、適切に利用する。

次に、これらの実験のうち複数を組み合わせて実施した研究を示す。

複数実験法を組み合わせた研究例

（　①　）実験と（　②　）実験を 1 つの論文のなかで報告した研究を紹介する。アルターとオッペンハイマー（Alter & Oppenheimer, 2006）は、「人間は処理しやすい情報を好む」という流暢性の原理を、株の購入場面で検証した。

株式市場では、値上がりしそうな銘柄に投資することで利益を得る。近い将来、値が上がるかどうかは、会社の業績や世界情勢、風評などに影響されるので、高度な数理モデルを用いても正確な予測が困難である。このような複雑な状況で意思決定を求められると、人間は解決のための単純な近道（ヒューリスティックス）を使うことが知られる。その一つとして、流暢性が挙げられる。処理しやすい情報は、処理しにくい情報に比べて、なじみがあり、よく起こり、有名で、好ましいと評価される傾向がある。知名度の高い会社は、無名の会社よりも、株価が高いことを示した研究は、それまでにも存在した。しかし、すでに市場にある銘柄を調べても、有名な会社だから株価が上がったのか、株価が上がったから会社が有名になったのか、因果関係の方向性を明らかにできない。

そこで、アルターとオッペンハイマーは、２つの実験法を組み合わせ研究を行った。研究 1 は（　①　）実験、研究 2 は（　②　）実験であった。

研究 1：（　①　）実験

会社名の流暢性が株価に因果的に影響することを確かめるために、（　①　）実験を行った。（　①　）実験の特徴は、独立変数を人為的に操作でき、剰余変数を統制できる。

まず、60 個の架空の会社名をつくり、大学生 10 名にその発音しやすさ（複雑さ）を 1 点（発音しやすい）から 4 点（発音しにくい）で評定してもらった。会社名ごとに平均評定値を求め、最も発音しやすい 15 個（平均評定値 1.7 点以下）と最も発音しにくい 15 個（3.1 点以上）を選定した。次に、別の大学生 29 名を対象に実験を行った。先ほど選んだ 30 個の会社名をランダムな順序で提示し、上場[注 1]から 1 年後の株価の変化率（騰落率）を−40%から+40%までの 9 段階で予想してもらった（1: 40%値下がりしている～4: 変わらない～9: 40%値上がりしている）。発音しやすさの違いについては、参加者に知らせなかった。

この実験の独立変数は「発音しやすさ」、従属変数は「1 年後の株価の予想騰落率」である。発音しやすい 15 個と発音しにくい 15 個に対する平均予想値を個人ごとに求め、参加者全員のデータを使って統計的に比較した。その結果、予想騰落率は、発音しやすい会社では平均＋3.90%、発音しにくい会社では−3.86%となった。この差は、偶然生じたにしては大きく、統計的に有意な差であった。

この（　①　）実験は、架空の会社名を用いており、会社の業績などその他の情報を与えなか

ったので、きちんと統制できていた。しかし、その点がまさに現実離れしており、実際の取引場面にも当てはまるかどうかは定かではない。そこで、研究者たちは、現実の株式市場のデータを使った（　②　）実験を計画した。

研究２：（　②　）実験

1990 年から 2004 年の間にニューヨーク証券取引所に上場した 89 の銘柄をランダムに選んだ。それぞれの銘柄名について、大学生 16 名が「もし授与式で名前を呼ぶように言われたらどのくらい発音しにくいか」を 6 件法で評定した（1:とても発音しやすい～6:とても発音しにくい）。それぞれの銘柄名の発音しやすさ（16 名の平均値）の評定値に基づき、発音しやすい銘柄と発音しにくい銘柄に二分した。従属変数は、各銘柄の上場 1 日後、1 週間後、6 か月後、1 年後の 4 時点における株価であった。仮説は、「他に情報のない上場直後には発音しやすさが株価に影響するが、時間が経つと他の情報が利用できるようになるので発音しやすさの影響は小さくなる」というものだった。

株式上場後 1 日、1 週間、6 ヶ月、1 年後のそれぞれにおける株価騰落率について、発音しやすい銘柄と発音しにくい銘柄の間で t 検定を４回行った。分析の結果、1 日後と 1 週間後には、発音しやすさの高い銘柄で、株価が高くなった。6 か月後と 1 年後には差が認められなかった。

この結果は、銘柄名の流暢性が株価に影響することを示している。しかし、（　②　）実験のため、交絡変数を統制できないという欠点があった。成功している会社だから発音しやすい銘柄名を付けることができたのかもしれない。また、銘柄名に含まれる意味情報が株価に影響を与えた可能性もある。（　②　）実験であるかぎり、このような可能性を完全に排除できないが、減らすことはできる。研究 3 では、意味情報をできる限り除いて発音しやすさだけに注目するため、会社名をアルファベット 3 文字に省略した銘柄コード（ティッカー）を用いて、同じ効果が認められるかを検証した。

注１：上場とは、株式などを証券取引所の取引物件として登録することである。

出典

入戸野宏（2020）．第 5 章 実験法（２）：実験の種類と具体例　三浦麻子・小島康生・平井啓（編著）　公認心理師スタンダードテキストシリーズ４ 心理学研究法（pp.56-67）　ミネルヴァ書房［一部を改変］

引用文献

Alter, A. L., & Oppenheimer, D. M. (2006). Predicting short-term stock fluctuations by using processing fluency. Proceedings of the National Academy of Sciences, 103(24), 9369-9372.

(1)（　①　）、（　②　）に当てはまる実験の種類を答えよ

(2) 研究 1 の特徴とその限界について、「心理学実験の種類と特徴」に関連して述べよ。(300 字以内)

(3) 研究 2 の分析では、株式上場後 1 日、1 週間、6 ヶ月、1 年後のそれぞれにおける株価騰落率について、発音しやすい銘柄と発音しにくい銘柄の間で t 検定を４回繰り返して実施しているが、有意水準の調整は行っていない。この分析の問題点を説明すると共に、研究２の実験計画としてよりふさわしい分析方法を提案せよ。ふさわしい分析については、予測される結果や効果等にも触れること。(300 字以内)

(4) 研究 1 および 2 の結果から導かれる結論を説明し、異なる２つの実験法で仮説を検証する意義やメリットについて述べよ。(400 字以内)

問 3　臨床心理学（心理療法、心理検査）

(1)以下の文章を読み、①から⑤の（　　）にあてはまる言葉を記述しなさい。

質問紙法などの標準化された心理検査においては，測定すべき対象が適切に測定できているかという「（　①　）性」と、複数回測定した場合でも安定しているかという「（　②　）性」が重視される。標準化された検査法は質問紙法に限らず、たとえば、ウェクスラー式知能検査があり、各下位尺度の素点を平均（　③　）、標準偏差３の「（　④　）点」に換算することで、下位検査の得点間での比較が直感的におこなえるようになっている。なお，被検査者の年齢が 15 歳１ヶ月の場合は、WAIS、WISC、WPPSI の 3 つのうち、（　⑤　）を用いる。

(2)実践家が自身の経験則と直感のみを手がかりに実践をおこなうことの問題点について、できるだけ多くの観点から、それぞれを分けて答えなさい。(800 字以内)

問 4　実践人間科学（心理学をコアとする人間科学）

なぜ育児はいつまでも「アナログ」なのか。「バービー人形」になった日本人の女性起業家、その原点は

ハフポスト日本版，Haruka Yoshida，2022 年 04 月 27 日 6 時 57 分 JST
https://www.huffingtonpost.jp/entry/ari-horie_jp_625ea4c7e4b0723f801d44e4

世界中で親しまれる「バービー人形」。
そのモデルに選ばれた日本人女性がいる。シリコンバレーを拠点に、自らも起業家として、女性起業家の育成を支援してきた堀江愛利さんだ。
バービー人形を販売するアメリカのマテル社が、“You Can Be Anything（何にだってなれる）”というメッセージとともに、世界中で活躍する女性のロールモデルのバービー人形を作るプロジェクト。過去に大坂なおみさんや黒柳徹子さんらも選出されてきたが、日本人の起業家としては堀江さんが初めてだ。
4 月から、日本でも女性起業家を増やす活動に乗り出した堀江さん。
彼女は、なぜ女性起業家の支援に力を注いできたのか。そして、先進国の中でも経済分野の女性リーダーがとりわけ少ない日本で、どんな取り組みをしていくのだろうか。

「アナログ」の連続だった、“シリコンバレー”での育児

堀江さんは広島県出身。アメリカの大学を卒業し、現地の IBM に就職。その後、スタートアップを渡り歩いた。
転機となったのが、2 児の母になった経験だ。
それまでシリコンバレーの第一線で最先端のテクノロジーに触れてきたが、育児の世界に足を踏み入れた途端、景色は一変した。
「アナログ」の世界に、急に舞い戻ってしまったのだ。
学校への書類提出は基本的に全て手書きで、記入する内容は名前や住所などいつも同じようなものばかり。学校や保育園、習い事の送り迎えを分単位で調整するものの、予定が少しでも狂うと、1 箇所ずつに電話しなければならない。
「なぜデジタルで一括で情報や予定を管理したり、調整したりするテクノロジーがないんだろう」
そんな疑問を抱くと同時に、ハッとした。
「テクノロジーがないわけじゃない。“男性が見ている”世界にしか入っていないんだ」

女性起業家が挫かれてしまう現実。これでは、未来は偏ってしまう

2011 年に教育関係のスタートアップを立ち上げると、その理由を思い知る。
投資家の 90%以上が男性。そのため、女性が中心で担う家事や育児、介護などにまつわる課題が実感として伝わりにくく、多くの女性起業家のアイデアは「明らかに刺さっていかない」のだ。事業のプレゼンに行っても「与えられた 30、40 分が『親って、子どもってこうなんですよ』と男性投資家への説明教育で終わってしまっていた」。
さらに、女性起業家自体が育ちにくいという壁も立ちはだかる。若い男性中心の起業家やエンジニアのネットワークに入っていけない、投資話の引き換えに身体の関係を要求される、家庭と仕事の両立に苦労する――そんな現実に肩を落とし、シリコンバレーを去る女性起業家を何人も見てきた。
「これじゃあ、私たちの未来って相当偏っちゃうな」。
そんな危機感と自分自身も「女性起業家として周囲からのサポートを受けなければ」という切迫した思いから、「Women’s Startup Lab」というコミュニティグループを設立した。すると、申し込みが殺到。各界のインフルエンサーからも「サポートさせてほしい」という支援の申し出が相次いだ。
自身が代表を務めるスタートアップの経営もある中で、予想だにしない大反響に、内心は尻込み

した。「とりあえず6ヶ月だけ…」。そう決めて始めたWomen’s Startup Labの取り組みは、アクセラレーター（起業支援）事業になり、気づけば10年目を迎えようとしている。

（中略）

「You Can Be Anything（女性は何にだってなれる）」を叶えるために

これまで、延べ5万人の女性を支援してきた堀江さん。こうした貢献が評価され、CNN「10 Visionary Women（10 人のビジョナリーウーマン）」、マリ・クレール誌「20 Women Who Are Changing the Ratio（男女比を変える 20 人の女性）」にも選ばれてきた。

そんな彼女が、世界を代表する女性起業家の「ロールモデル」として、母国・日本の女性に伝えたいこととは。

堀江さんは「もっと自分の中のCrazy（夢中）を大切にして、一歩を踏み出して」と話す。

しかし、直後に口をついて出るのは、女性たちになかなか一歩を踏み出させてくれない社会構造の歪みを正さなくては、という強い使命感だ。

「日本では、女性たちが自らの可能性や能力を発揮しようとすると“ペナルティ”があるのが現実です。“You Can Be Anything（女性は何にだってなれる）”はもちろん当たり前。でも、その先に“Because…（なぜなら…があるから）”が続くような環境を作っていかなければなりません」

「女性たちがつまずかずに“マラソン”をしていくためには何が必要か。“もっと頑張って”と彼女たちを上に引き上げることは一つ。一方で、女性たちに“無理な頑張り”を強いずとも彼女たちが走り切れるようにするために、足元の障害自体を取り除いてあげることが重要だと思っています。

これまで私は起業という通過点で女性たちを“引き上げる”活動をしてきましたが、日本では特に、女性の活躍を阻む社会のエコシステム全体を俯瞰していくことに注力していきたい。もちろん全ての解決はできませんが、企業や自治体の間に入って『ここは問題なので埋めてくれませんか』と道路整備をする存在になっていけたらと思います」

(1) 下線部の「ペナルティ」について、シリコンバレーではどういうことが挙げられるか。課題文の主旨に即して200字以内で記述しなさい。

(2) 文中では堀江さんが「社会構造の歪みを正さなくては」という使命感を持っている。ジェンダーの問題に限らず、あなたの身近なところでも「社会構造の歪み」が存在するとすれば、具体的にどのようなものが挙げられるか。400字以内で記述しなさい。

(3)「社会構造の歪み」は多様な形で存在し、女性に限らず様々な困難を抱える人の活躍を阻んでいる。このような問題の解決に向けて、あなたはどのような取り組みができるか。具体例を挙げながら400字以内で記述しなさい。

問題は回収します

（第 1 時限：60 分）

（2023 年 2 月実施）

2023 年度

人間科学研究科入学試験問題

博士課程前期課程

外国語

（全 4 ページ）

＜一般入試方式＞

※ 解答用紙すべてに受験番号と氏名を記入しなさい。

受験番号	志望領域	志望コース	氏名

次の文章を読み、本文の内容に即して下の問題に答えなさい。

この問題は、公開していません。

この問題は、公開していません。

*1 delirium せん妄
*2 corpus collosum 脳梁

問 1 音楽に注目が集まっていることに関して、文中に書かれていることについてまとめなさい（200 字以内）。

問 2　音楽が子ども発達に与える影響について、具体的な研究内容と経時的変化を含めて説明しなさい（450 字以内）。

問 3　音楽が高齢者のウェルビーイングに与える影響について、研究結果を含めて説明しなさい（150 字以内）。

Tori DeAngelis (2020, November 1). Music's power over our brains. *Monitor on Psychology*, 51(8).
https://www.apa.org/monitor/2020/11/news-music-power
The article has been linked to with permission.

（第 1 時限：60 分）

問題は回収します

（2023 年 2 月実施）

2023 年度

人間科学研究科入学試験問題

博士課程前期課程

小論文

（全 3 ページ）

＜社会人入学試験＞

※ 解答用紙すべてに受験番号と氏名を記入しなさい。

受験番号	志望領域	志望コース	氏名

以下の文章を読み、問に答えなさい。

回復の語りは、私が論じている多くの人々の物語の中にあって支配的なものであるが、とりわけそれは病気になって間もない人々に顕著で、慢性疾患の場合にはその頻度が最も低くなる。誰であれ、病気になった者は、再び健康になりたいと願うものである。しかも今日の文化の中では、健康は取り戻さなければならない正常な状態と見なされる。つまり、病者自身の回復への欲望の中には、①その回復の物語を聴きたいと願う人々の期待が混入しているのである。

回復の物語のプロットには、次のような基本的な筋書きが存在する。「昨日私は健康であった。今日私は病気である。しかし明日には再び健康になるであろう」。この筋書きが、検査やその説明、治療やそこから生じる結果、医者の腕前、代替療法などの話によってふくらまされていく。それらの出来事は、現実のものであるが、シェイファーが言う意味でのメタファーとして、健康を取り戻すという筋書きを具体化していくものともなる。「新品になったみたいに調子がいい（as good as new)」というようなメタフォリック表現が回復の語りの核をなしている。こうした表現は、物語が何を語ろうとしているのかを繰り返し思い起こさせる。すなわちそれは、健康をめぐる物語なのである。

回復の物語は、将来に向けての予測としても、過去を振り返る形でも、また制度的な形式でも語られることがある。私は以前、一人の男性から、将来に向けて予測された回復の物語を聞いたことがある。その時私は、彼がこれから癌のために外科手術を受けようとしていることを伝え聞いていた。私はその彼に、ご病気とうかがってお気の毒と思うと言ったのであったが、すると彼は何を言っているのかよく分からないという風に私を見つめ返し、そのあと急に私が言わんとしたことに気づいたかのように表情を変え、急いで「いいえ、何でもありませんよ」と答えたのであった。そのあと私たちは長時間にわたって彼の手術のことを話し合い、その中で彼は病気によってもたらされる変化を帳消しにしてしまうのではなくて、さまざまな結果を自分の人生の中でこんな風に活かしていくことができるのではないか、という物語を語った。その予測された回復の物語が、手術に立ち向かう勇気を彼に与えていたのだった。ただしその後、手術は長時間におよび、思わしくない診断が下されることになる。その時点で彼は予測と現実を折り合わせていく力を失って、また②別の物語を必要としたことだろう。

私が、過去を振り返る形での回復の物語を聴いたのは、癌患者のセルフヘルプグループの会合に参加したある晩のことであった。そのグループの会合は、他でもグループが少しずつ趣向を変えて行っているような、ひとつの儀式から始まる。参加者一人ずつ、自分の名前と、どんな種類の癌にいつかかったのかを言っていく。時にはそこに、ちょっとした個人的な近況がつけ加えられることもある。そして、ほとんどの人は、最後に、声の調子を上げて、「今は元気です！（I’m fine!)」と締めくくる。そのグループのレギュラーメンバーの大半は、癌から立ち直って寛解の状態にあった。しかしその晩には、まだ治療を継続している一人の女性が参加していた。彼女は、自分自身の癌について話すうちに泣き出してしまった。すると、これに対してグループは、彼女の話をそこで終わらせて、隣に座っている人、つまり次の話し手の自己紹介を始めるように促したのであった。その次の語り手は、非常に簡潔に自己紹

介を済ませ、特に力を込めて「今は元気です」と言葉を継いだ。そして、そのあとはもう誰も、この話しの中断について意見を言わなかったし、治療中の人の苦しみに触れるところへと話しを戻す人もいなかった。このようにしてグループは、回復の物語に対する選好を表現し、それ以外の語りの形式において病いの物語を聞くことに不快感を示していたのである。

回復の語りは、よくなりたい、元気でいたいという「自然な」欲望を反映するだけのものではない。人々はこの種の語りを、病はかく語られるべきであるというモデルを提供するさまざまな制度的物語から学習する。あるアメリカ北東部の大病院が、その病院の癌センターについて書かれた、大衆新聞の付録版を配ったことがある。その冊子は 16 ページにわたり、ふだんの新聞よりも鮮明に印刷され、明らかにプロの手による写真を掲載していた。その内容の中心をなしているのは、3 人の癌患者の物語である。それは三つとも回復の物語として語られたものであった。「２週間後、ジョアンはフルタイムの仕事に戻っていたのだった」、「ハリーは今や新しい免疫系を手にし、彼はまったく新しいゲームが始まったのだと考えている」、そして「今日メアリーは再びその活動的で生産的な生活を取り戻し、さらには新しい楽しみをも見いだしている」というわけなのである。

この冊子は確かに公衆に対する啓蒙機能を果たしており、さまざまな癌の種類やそれぞれの治療法を簡潔に説明する手頃な用語解説を提供している。しかし、現に治療を受けている患者や、治療の影響を被っている患者は一人も登場しない。写真に写っているのは、庭造りやスポーツやその他の趣味にそれぞれの「楽しみ」を見いだしている患者の姿である。レントゲン撮影の機械が一台示されているけれども、実際に使われている様子ではない。専門のスタッフが、そのまわりに、まるで会議でもするかのように、座ってポーズをとっている。患者たちの物語は、治療がどのようなものであったのかを語っているが、話のポイントは治療後の生活、つまり「今は元気です！」への帰還にある。

出典：アーサー・フランク「傷ついた物語の語り手　―　身体・病い・倫理」鈴木智之訳　ゆみる出版（2002, p. 114-116）一部修正変更した。

問

（１）　下線部①の「その回復の物語を聴きたいと願う人々の期待が混入している」ということを示す２つの具体例を挙げその意味について説明しなさい。(300 字以内)

（２）　下線部②の「別の物語」とはどのような物語と考えられるか説明しなさい。(300 字以内)

（３）　「回復の物語」が人の病の体験に与えうる肯定的また否定的効果について論じ、病について語ることがどうあるべきかということについてあなたの意見を述べなさい。(600 字以内)

（第 1 時限：60 分）

問題は回収します

（2023 年 2 月実施）

2023 年度

人間科学研究科入学試験問題

博士課程前期課程

小論文

（全 3 ページ）

＜外国人留学生入学試験＞

※ 解答用紙すべてに受験番号と氏名を記入しなさい。

受験番号	志望領域	志望コース	氏名

以下の文章を読み、問に答えなさい。

回復の語りは、私が論じている多くの人々の物語の中にあって支配的なものであるが、とりわけそれは病気になって間もない人々に顕著で、慢性疾患の場合にはその頻度が最も低くなる。誰であれ、病気になった者は、再び健康になりたいと願うものである。しかも今日の文化の中では、健康は取り戻さなければならない正常な状態と見なされる。つまり、病者自身の回復への欲望の中には、①その回復の物語を聴きたいと願う人々の期待が混入しているのである。

回復の物語のプロットには、次のような基本的な筋書きが存在する。「昨日私は健康であった。今日私は病気である。しかし明日には再び健康になるであろう」。この筋書きが、検査やその説明、治療やそこから生じる結果、医者の腕前、代替療法などの話によってふくらまされていく。それらの出来事は、現実のものであるが、シェイファーが言う意味でのメタファーとして、健康を取り戻すという筋書きを具体化していくものともなる。「新品になったみたいに調子がいい（as good as new)」というようなメタフォリック表現が回復の語りの核をなしている。こうした表現は、物語が何を語ろうとしているのかを繰り返し思い起こさせる。すなわちそれは、健康をめぐる物語なのである。

回復の物語は、将来に向けての予測としても、過去を振り返る形でも、また制度的な形式でも語られることがある。私は以前、一人の男性から、将来に向けて予測された回復の物語を聞いたことがある。その時私は、彼がこれから癌のために外科手術を受けようとしていることを伝え聞いていた。私はその彼に、ご病気とうかがってお気の毒と思うと言ったのであったが、すると彼は何を言っているのかよく分からないという風に私を見つめ返し、そのあと急に私が言わんとしたことに気づいたかのように表情を変え、急いで「いいえ、何でもありませんよ」と答えたのであった。そのあと私たちは長時間にわたって彼の手術のことを話し合い、その中で彼は病気によってもたらされる変化を帳消しにしてしまうのではなくて、さまざまな結果を自分の人生の中でこんな風に活かしていくことができるのではないか、という物語を語った。その予測された回復の物語が、手術に立ち向かう勇気を彼に与えていたのだった。ただしその後、手術は長時間におよび、思わしくない診断が下されることになる。その時点で彼は予測と現実を折り合わせていく力を失って、また②別の物語を必要としたことだろう。

私が、過去を振り返る形での回復の物語を聴いたのは、癌患者のセルフヘルプグループの会合に参加したある晩のことであった。そのグループの会合は、他でもグループが少しずつ趣向を変えて行っているような、ひとつの儀式から始まる。参加者一人ずつ、自分の名前と、どんな種類の癌にいつかかったのかを言っていく。時にはそこに、ちょっとした個人的な近況がつけ加えられることもある。そして、ほとんどの人は、最後に、声の調子を上げて、「今は元気です！（I’m fine!)」と締めくくる。そのグループのレギュラーメンバーの大半は、癌から立ち直って寛解の状態にあった。しかしその晩には、まだ治療を継続している一人の女性が参加していた。彼女は、自分自身の癌について話すうちに泣き出してしまった。すると、これに対してグループは、彼女の話をそこで終わらせて、隣に座っている人、つまり次の話し手の自己紹介を始めるように促したのであった。その次の語り手は、非常に簡潔に自己紹

介を済ませ、特に力を込めて「今は元気です」と言葉を継いだ。そして、そのあとはもう誰も、この話しの中断について意見を言わなかったし、治療中の人の苦しみに触れるところへと話しを戻す人もいなかった。このようにしてグループは、回復の物語に対する選好を表現し、それ以外の語りの形式において病いの物語を聞くことに不快感を示していたのである。

回復の語りは、よくなりたい、元気でいたいという「自然な」欲望を反映するだけのものではない。人々はこの種の語りを、病はかく語られるべきであるというモデルを提供するさまざまな制度的物語から学習する。あるアメリカ北東部の大病院が、その病院の癌センターについて書かれた、大衆新聞の付録版を配ったことがある。その冊子は 16 ページにわたり、ふだんの新聞よりも鮮明に印刷され、明らかにプロの手による写真を掲載していた。その内容の中心をなしているのは、3 人の癌患者の物語である。それは三つとも回復の物語として語られたものであった。「２週間後、ジョアンはフルタイムの仕事に戻っていたのだった」、「ハリーは今や新しい免疫系を手にし、彼はまったく新しいゲームが始まったのだと考えている」、そして「今日メアリーは再びその活動的で生産的な生活を取り戻し、さらには新しい楽しみをも見いだしている」というわけなのである。

この冊子は確かに公衆に対する啓蒙機能を果たしており、さまざまな癌の種類やそれぞれの治療法を簡潔に説明する手頃な用語解説を提供している。しかし、現に治療を受けている患者や、治療の影響を被っている患者は一人も登場しない。写真に写っているのは、庭造りやスポーツやその他の趣味にそれぞれの「楽しみ」を見いだしている患者の姿である。レントゲン撮影の機械が一台示されているけれども、実際に使われている様子ではない。専門のスタッフが、そのまわりに、まるで会議でもするかのように、座ってポーズをとっている。患者たちの物語は、治療がどのようなものであったのかを語っているが、話のポイントは治療後の生活、つまり「今は元気です！」への帰還にある。

出典：アーサー・フランク「傷ついた物語の語り手　―　身体・病い・倫理」鈴木智之訳　ゆみる出版（2002, p. 114-116）一部修正変更した。

問

（１）　下線部①の「その回復の物語を聴きたいと願う人々の期待が混入している」ということを示す具体例を挙げその意味について説明しなさい。(200 字以内)

（２）　下線部②の「別の物語」とはどのような物語と考えられるか説明しなさい。(200 字以内)

（３）　「回復の物語」が人の病の体験に与えうる肯定的また否定的効果について論じ、病について語ることがどうあるべきかということについてあなたの意見を述べなさい。(400 字以内)